

令和 8 年度新規採択希望

県営ため池等整備事業
(小規模)

土地改良事業計画書

大谷新池・歳ヶ原地区

広島県

第1章	目 的	1	第3節	ため池改修計画	10
			1.	洪水吐改修計画	11
			2.	堤体補強計画	12
第2章	地域及び地積	1	第5章	主要工事計画	13
第1節	地 域	1	第1節	老朽ため池改修施設	13
第2節	地 積	1	1.	貯水池	13
			2.	堤体補強施設	13
第3章	現 況	2	第6章	附帯工事計画	13
第1節	気象及び海象	2	第7章	工事の着手及び完了の予定時期	14
1.	一般気象	2	第8章	環境との調和への配慮	15
2.	特殊気象	2	第9章	事業費の総額及び内訳	15
3.	海 象	3	1.	総括表	15
第2節	土地状況	3	2.	工事費内訳表	16
1.	地形、土壌及び侵食の程度	3	第10章	効 用	19
2.	土地利用の状況	4	第11章	関連する事業	19
3.	土地所有の状況	4	第12章	現況・計画図面	19
第3節	水利状況	5			
1.	用水状況	5			
第4節	地域環境の概況	6			
第4章	一 般 計 画	7			
第1節	事業計画の要旨	7			
1.	要 旨	7			
2.	事業別面積	8			
第2節	用水計画	8			
1.	計画基準年	8			
2.	計画かんがい方式	8			
3.	計画用水系統	8			
4.	計画用水量	8			
5.	水源計画	9			

第1章 目 的

(1) 必 要 性

本ため池は、三次市島敷町一帯の農地をかんがいするため池である。近年堤体の老朽化が進み、下流法尻からの漏水が著しく、浸食等により、堤体が弱体化し、常に堤体決壊の危険にさらされている。また、堤体余裕高もとれておらず、堤体の安全性を確保するため、本ため池は早急な改修を要する。
流域内のため池において統廃合の整備を行うことにより、維持管理労力の軽減、地域の安全性とため池の持つ本来機能である農業用水の確保を図る。

(2) 緊 急 性

堤体からの漏水が著しく、浸食等により堤防が弱体化しており、決壊の危険にさらされている。
従って受益農家及び堤体下流側住民の不安解消と堤防決壊による被害を未然に防止するため、本ため池は緊急に補強対策工事を実施しなければならない。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
県営ため池等整備事業	三次市島敷町

第2節 地 積

(令和 7 年 7 月現在) (第2表)

事業名	市町村名	現況地目								計	備 考
		田 (ha)	畑 (ha)	樹園地(ha)	原野(ha)	山林(ha)	道水路敷 (ha)	その他 (ha)			
県営ため池等整備事業	三次市	15.1	0.8	—	—	—	—	—		15.9	
	計	15.1	0.8							15.9	

第3章 現況

第1節 気象及び海象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名 庄原		かんがい期		非かんがい期		計又は平均	備考
観測期間 1961年～2024年		5月～9月		10月～4月			
平均気温		21.2℃		6.4℃		12.6℃	最近10ヵ年 13.4℃
降水量	平均	913.5mm		592.9mm		1506.4mm	最近10ヵ年 1618.8mm
	基準年	mm		mm		mm	年
降水日数	平均	55日		76日		131日	観測期間 1976年～2024年
	基準年	日		日		日	年
根雪期間		-月-日～-月-日-日間					-月-旬
無霜期間		-月-日～-月-日-日間					
最多風向		西北西		最大風速 (風向)		12.2 m/s (南南西)	最多風向発生時期 11月～5月 最大風速発生年月日 2012年4月3日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 三次	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	
観測期間 S.26年～R.6年																
最大日雨量 (mm)	210.0	S47.7.10	134.6	187.0	R3.8.14	54.3	182.0	S58.7.23	44.6	172.0	S40.6.19	30.2	166.0	H30.7.6	23.9	
最大時間雨量 (mm)	74.0	H8.7.22	1515.8	45.0	H12.9.22	12.5	42.0	S53.9.15	8.1	41.0	S56.6.27	7.0	41.0	H9.8.5	7.0	S51～R6(観測期間)
最大4時間雨量 (mm)	108.0	H2.9.13	50.9	102.0	S58.7.23	30.4	94.0	H8.7.22	15.8	91.0	S54.6.23	12.6	90.0	S53.9.15	11.7	S51～R6(観測期間)
最大連続雨量 (mm)	498.0	S60.6.21 ～6.30	-	488.5	R3.8.12 ～8.22	-	424.0	S54.6.20 ～7.2	-	373.5	H30.7.3 ～7.8	-	336.5	H22.7.8 ～7.15	-	S51～R6(観測期間)
最大連続干天日数 (日)	85.0	S51.1.1 ～3.25	1072.0	85.0	S52.1.1 ～3.26	1072.0	79.0	S53.1.1 ～3.20	617.6	44.0	R4.10.10 ～11.22	18.0	42.0	S46.10.30 ～12.10	14.5	

3 海 象

該 当 な し

(第3表-3)

観測所名		既往最高潮位	さく望平均満潮位	上下弦平均満潮位	平均潮位	上下弦平均干潮位	さく望平均干潮位	既往最低潮位		備 考
観測期間										
実 測 値	()									

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地 目	田						畑 そ の 他						受益地標高(m)		備 考		
		傾斜区分	1/1,000以下	1/1,000~1/100	1/100~1/20	1/20~1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3°~8°	8°~15°			15°~20°	20°以上		計	最高
等 県 整 営 備 だ め 池	面積(ha)		15.1				15.1	0.8							0.8	214 m	163 m	
	比率(%)		100				100	100							100			

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壤 統 区 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)			備 考
	土 壤 断 面										事 業 名			
	色	腐 食	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性				泥炭層, 黒泥層およびグライ層	堆積様式	母 材	ため池等整備事業	計	
					表 土	下 層 土								
				1層	2層	3層	...							
北多久	黄(黄褐)	表層腐食層なし	なし					強粘	なし	洪積世堆積	非固結堆積岩		5.0	土壌統番号 1015
栢山	灰褐	表層腐食層なし	0~30cm以下					-	なし	水積	非固結堆積岩		10.9	土壌統番号 1322
計													15.9	

2 土地利用の状況

(令和 7 年 7 月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地							山 林		採 草 放 牧 地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)		普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その 他 樹 園 地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
		1毛作田	2毛作田以上												
県営ため池等整備事業	三次市	15.1		0.8									15.9		
	計	15.1		0.8									15.9		
	合 計	15.1		0.8									15.9		

3 土地所有の状況

(令和 7 年 7 月現在) (第4表-4)

事業名	所有別 区分	50a以下	50a～100a未満	100a以上	計	備 考
		面積 (ha)	15.9			
県営ため池等整備事業	受益者数 (人)	28			28	
	筆 数 (筆)	122			122	
	権 利 関 係	自作				
	備 考 (関係戸数)	(28)			(28)	

第3節 水利状況

1 用水状況

(1) 用水系統

別紙用水系統図参照

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ 取水量 m³/s	備考
		20 ha以上		1 ~ 20 ha		1 ha以下		個所	ha	個所	m³/s	個所	m³/s		
		個所	ha	個所	ha	個所	ha								
県営ため池等整備事業	貯水池			1	15.9			1	15.9			1	0.111	0.111	
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計			1	15.9			1	15.9			1	0.111	0.111	
合計				1	15.9			1	15.9			1	0.111	0.111	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は箇所数	受益面積 (ha)		構造	規模	新設年 又は 更新年	改修を必要 とする理由	備考			
			全体	関係分					管理者	当該施設の築造		河川名
										事業名	経過年数	
県営ため池 等整備事業	貯水池	大谷新池	15.9	15.9	均一型	堤高 7.9 m 堤長 56.0 m	不明	余裕高不足であり前後法面が急勾配で安定性を欠いている。また、浸食により脆弱化している。	大谷川水利組合	-	不明	大谷川

※歳ヶ原は廃止

(3) ため池等施設決壊の場合の被害状況

(第5表-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						備考
	水田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計	
合計	15.1	0.8	25.9	41.8	12,795	273,066	156,831	1,285,649	7,558,562	9,286,903	人命 522 人

第4節 地域環境の概要

本地域は、三次市の北部に位置し、大谷川沿いの標高214～163mに広がる農振農用地区域である。

気候は、県北の中国山地に位置しているため、高冷地帯となっており温度差が大きい。

地質は、安山岩類、流紋岩およびそれらの凝灰岩当が広く分布している。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要 旨

項 目	事業を必要とする理由	改 修 補 強 工 法
取 水 施 設	老朽化のため亀裂・折れの可能性がある。現況に緊急放流施設がない。	斜樋：塩ビ管φ200mmコンクリート巻立に改修(中央・右岸) 緊急放流施設：塩ビ管φ250mmコンクリート巻立 底樋：プレキャスト底樋管φ800mm(中央) 塩ビ管φ200mm(右岸)
洪 水 吐	老朽化し、安全に流下できる状況では無い。	側水路型洪水吐に改修 越流幅 22.0m
堤 体 また は 基 礎 か ら の 湧 水 状 況	下流法面より漏水がある。漏水量 $S=83.00\text{‰}/\text{min}/100\text{m} > 60.0\text{‰}/\text{min}/100\text{m}$	遮水シート工法により全面改修する。
堤 体	余裕高不足であり前後法面が急勾配で安定性を欠いている。また、浸食により脆弱化している。	前法面： 法勾配1:2.1、布製型枠、張芝による改修 後法面： 法勾配1:2.1、法先ドレーン、張芝による改修 法勾配： 上流1:2.1 下流1:2.1

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用 区分 事業目的	た め 池 等 整 備 事 業						備 考
	田 (ha)	普 通 畑 (ha)	放 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	
ため池改修	15.1	0.8				15.9	
計	15.1	0.8				15.9	

第2節 用水計画

1 計画基準年

—

2 計画かんがい方式

自然流下方式

3 計画用水系統

現況用水系統と同じ

4 計画用水量

かん水期最大必要流量Qは

$\text{中央}Q = \frac{AM \times q1 + (As - AM) \times q2}{8640 \times (1 - Pn)}$ $= 0.081 \text{ m}^3/\text{s}$	ここに As: かんがい面積 13.1 ha AM: 代掻能力 1.42 ha/日 q1: 代かき必要水深 140.0 mm/day	q2: 減水深 33.8 mm/day P: 水路損失率 15.00 % N: 代掻き日数 10.00 日
---	--	---

かん水期最大必要流量Qは

$\text{右岸}Q = \frac{AM \times q1 + (As - AM) \times q2}{8640 \times (1 - Pn)}$ $= 0.03 \text{ m}^3/\text{s}$	ここに As: かんがい面積 2.8 ha AM: 代掻能力 1.42 ha/日 q1: 代かき必要水深 140.0 mm/day	q2: 減水深 16.7 mm/day P: 水路損失率 15.00 % N: 代掻き日数 10.00 日
--	---	---

5 水源計画

(1) 用水対策

(ア) 貯水池

(第10表-3)

項目 貯水池名	流域面積 (km ²)		かんがい面積 (ha)	純貯水量 (千m ³)	利用貯水量 (千m ³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m ³ /s)	備 考
	直 接	間 接						
大谷新池	0.826	-	15.9	19.0	19.0		0.111	

(イ) 井堰および自然取入

(第10表-4)

項目 取水施設名	河川名 (河川指定)	流域面積 (km ²)	かんがい面積 (ha)			取水量 (m ³ /s)		渇水量 (m ³ /s)	備 考
					計	最 大	平 均		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(ウ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	か ん が い 面 積 (ha)			最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	備 考
			計				
-	-	-	-	-	-	-	

第3節 ため池改修計画

総括表

名称		大谷新池				位置	三次市畠敷町						
堤		形式	堤高	堤長	堤頂幅	堤体積	総貯水量	有効貯水量	堤頂標高	満水面標高	満水面積	有効貯水量 /総貯水量	
	現況	均一型	7.9 m	56.0 m	4.0 m	4.2 千m ³	17.7 千m ³	17.7 千m ³	247.26 m	246.10 m	0.60 ha	1.00	
	計画	傾斜遮水型	9.4 m	61.6 m	3.9 m	6.5 千m ³	19.0 千m ³	19.0 千m ³	247.90 m	246.10 m	0.60 ha	1.00	
		法面勾配		法面保護工			備考						
	現況	上流 1 : 2.2 下流 1 : 1.9		上流: 土羽 下流: 土羽									
計画	上流 1 : 2.1 下流 1 : 2.1		上流: 布製型枠、張芝 下流: 張芝										
洪水吐		形式	構造	洪水吐能力	越流水深	越流堤長	敷標高	ゲート	計画雨量	流出率	計画洪水量		
	現況	側水路型	コンクリート	12.112 m ³ /s	0.56 m	13.5 m	EL m 245.64	巾 - m 高 - m	mm/hr -	- %	- m ³ /s		
	計画	側水路型	鉄筋コンクリート	12.112 m ³ /s	0.40 m	22.0 m	EL m 245.50	巾 - m 高 - m	mm/hr 69.82	63 %	12.112 m ³ /s		
取水施設		斜樋又は堅樋(中央,右岸)			底樋(中央,右岸)			取水量	地質	基礎処理	仮排水工	流域面積	
		形式	径	長さ	形式	径	長さ						
	現況	塩ビ管	-	-	ヒューム管	300 mm	- m	0.081 m ³ /s	-	-	-	0.826 km ²	
			-	-	塩ビ管	150 mm	- m	0.030 m ³ /s					
	計画	塩ビ管	200mm	13.8m	プレキャスト管	800 mm	44.3 m	0.081 m ³ /s	-	-	-	0.826 km ²	
200mm			5.6m	塩ビ管	200 mm	22.7 m	0.030 m ³ /s						

※歳ヶ原は堤体開削工法によるため池廃止。

(大谷新池へ用水機能を統合とする。)

1 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計 画 降 雨	観測機関名	三次観測所		
	計画基準雨量	既往最大時間雨量	74.0mm/hr	
	計画根拠	A項流量	$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A$	$r_e = f_p \times r = 0.63 \times 65.71 = 41.40(\text{mm/hr})$
			$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A = (1/3.6) \times 41.40 \times 0.826 = 9.449(\text{m}^3/\text{s})$	
		B項流量	溜池地点で観測された最大洪水流量の記録及び過去の洪水痕跡がないので、検討から除外する。	
		C項流量	$r_e = f_p \times r = 0.63 \times 69.82 = 43.99(\text{mm/hr})$	
		$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A = (1/3.6) \times 43.99 \times 0.826 = 10.093(\text{m}^3/\text{s})$		
	「貯留効果算定」	0.826/0.004=207>30 より考慮しない。		

(2) 計画洪水量

集水面積	直接	82.6	ha	合	計
	間接	-	ha	82.6	ha
計 画 洪 水 量	計算式	$r_e = f_p \times r$			
	流出率	$f_p = 0.63$			
	計画洪水量	$r_e = f_p \times r = 0.63 \times 69.82 = 43.99(\text{mm/hr})$			
		$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A$			
		$Q_p = (1/3.6) \times 43.99 \times 0.826 = 10.093(\text{m}^3/\text{s})$			
		$Q = Q_p \times 1.2 = 12.112\text{m}^3/\text{s}$			
	貯留効果 なし				

2 堤体補強計画

(1) 法面保護施設

上流法面の保護は、1/2貯水位から設計洪水位+波の打上げ高さまで布製型枠を施す。

また、下流法面の保護は芝工を施し、法先ドレーンを設置する。

(2) 漏水防止工

遮水シート工法により止水する。

(3) 取水施設改修計画

	斜 樋	底 樋
現況	塩ビ管(サイフォン) φ 150mm(中央) 不明(右岸)	ヒューム管 φ 300mm(中央) 塩ビ管 φ 150mm(右岸)
計画	塩ビ管鉄筋コンクリート巻立 φ 200mm(右岸斜中央樋工) 塩ビ管鉄筋コンクリート巻立 φ 250mm(中央緊急放流工) 塩ビ管鉄筋コンクリート巻立 φ 200mm(右岸斜樋工)	ヒューム管 φ 800mm(プレキャスト管)(中央) 塩ビ管 φ 200mm(鉄筋コンクリート巻立)(右岸)

第5章 主要工事計画

第1節 老朽ため池改修施設

1 貯水池

(第24表)

名 称	大谷新池				位置	三次市畠敷町		
	型 式	流 域 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)		堤 体 積 (m ³)	堤 頂 幅 (m)	貯 水 量 (千m ³)
堤 体	傾斜遮水型	82.6	9.4	61.6	6.5	3.90	19.0	
	型式	洪水量 (m ³ /s)	規 模 (m)	備 考				
洪 水 吐	側水路型	12.112	22.0		取水 施設	(取水孔)	0.111	

2 堤体補強施設

(1) 法面保護施設

上流法面の保護は、1/2貯水位から設計洪水位+波の打上げ高さまで布製型枠を施す。

また、下流法面の保護は芝工を施し、法先ドレーンを設置する。

(2) 漏水防止工

遮水シート工法により止水する。

第6章 付帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1 工事の着手及び完了の予定時期

着 手 令 和 8 年 度
完 了 令 和 12 年 度

2 工程表

	全 体	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 年度	令和 年度
堤 体 工	272,700		18,454	138,378	90,329	25,539		
洪水吐工	156,300				82,839	73,461		
取水施設工	149,300		32,846	80,622	35,832			
撤 去 工	47,700		47,700					
測量及び試験費	20,000	20,000						
用地買収補償費	4,000		1,000	1,000	1,000	1,000		
工事雑費	0							
計	650,000	20,000	100,000	220,000	210,000	100,000		
百分率	100 %	3 %	15 %	34 %	32 %	16 %		

第8章 環境と調和への配慮

【大谷新池】

環境調査により確認した保護すべき種となる環境省・広島県の絶滅危惧種・準絶滅危惧種は以下のとおりである。

保護すべき種として11種(アカハライモリ、トノサマガエル、ニホンアカガエル、ツマグロキキョウ、グンバイトンボ、フタスジサナエ、タバサナエ、コガネグモ、イヌタヌキモ、ウキゴケ、テリハアザミ)が発見された。アカハライモリ、グンバイトンボ、フタスジサナエ、タバサナエ、イヌタヌキモ、ウキゴケを保護対象種とし、氾濫域周辺において、仮締切により水域を確保して保護を行う。

駆除対象となる特定外来生物については、3種(ブルーギル、オオクチバス、ウシガエル)が発見されたため、落水時には下流へ流出しないよう土のうを設置し、下流農地へ流し込み捕獲・駆除を行う。

【歳ヶ原】

環境調査により確認した保護すべき種となる環境省・広島県の絶滅危惧種・準絶滅危惧種は以下のとおりである。

保護すべき種として7種(トノサマガエル、ニホンアカガエル、グンバイトンボ、フタスジサナエ、タバサナエ、イヌタヌキモ、ムカシヤンマ)が発見された。グンバイトンボ、フタスジサナエ、タバサナエを保護対象種とし、下流ため池において保護対策を行う。

駆除対象となる特定外来生物については、2種(ブルーギル、ウシガエル)が発見されたため、落水時には網を設置し、捕獲・駆除を行う。

第9章 事業費の総額及び内訳

1 総括表

区分	事業名	備考
工事費	626,000 千円	
測量試験費	20,000	土質試験費 4,000 千円 測量業務費 3,700 千円 実施設計費 12,300 千円
機械器具費		
用地買収補償費	4,000	借地料・補償費 4,000 千円
営繕費		
実施設計費		
工事雑費		
地方事務費	32,500	
計	682,500	

2 工事費内訳表(大谷新池・歳ヶ原地区)

区 分	事 業 量	金 額	単 位 当 り 費 用	備 考	
堤 体 工	61.6 m	272,700 千円	4,426,900 円/m		
		198,500			
		13,500			
		3,900			
		56,800			
土工・取壊				5,672 m ³ × 35,000 円/m ³	
				法面工	507 m ² × 26,630 円/m ³
				腰積工	71 m ² × 54,930 円/m ²
				仮設工	1 式 × 56,800,000 円/m ²
洪水吐工	75.4 m	156,300 千円	2,072,900 円/m		
		33,700			
		122,600			
土工				2,963 m ³ × 11,370 円/m ³	
				水路工	1.0 式 × 122,600,000 円/m ³
取水施設工	斜樋工 L= 19.4 m	61,200 千円	3,154,600 円/m		
		61,200			
斜樋工 緊急放流工				27.2 m × 2,250,000 円/m	
底樋工	底樋工 L= 67.0 m	88,100 千円	1,314,900 円/m		
		88,100			
底樋工				67.0 m × 1,314,930 円/m ³	
撤去工	1 式	47,700		撤去工 1 式 × 47,700,000 円/m ²	
測量試験費	1 式	20,000 千円		土質調査業務 4,000 千円	
				測量業務 3,700 千円	
				設計業務 12,300 千円	
用地買収補償費	1 式	4,000 千円		借地料・補償費 4,000 千円	
工事雑費	一 式	一 千円			
事業費		650,000 千円			

工事費内訳表(大谷新池)

区 分	事 業 量	金 額	単 位 当 り 費 用	備 考
堤 体 工	61.6 m	272,700 千円	4,426,900 円/m	
		198,500		土工・取壊 5,672 m ³ × 35,000 円/m ³
		13,500		法面工 507 m ² × 26,630 円/m ³
		3,900		腰積工 71 m ² × 54,930 円/m ²
		56,800		仮設工 1 式 × 56,800,000 円/m ²
				撤去工 式 × 円/m ²
洪 水 吐 工	75.4 m	156,300 千円	2,072,900 円/m	
		33,700		土工 2,963 m ³ × 11,370 円/m ³
		122,600		水路工 1.0 式 × 122,600,000 円/m ³
取 水 施 設 工	斜樋工 L= 19.4 m	61,200 千円	3,154,600 円/m	斜樋工 緊急放流工 27.2 m × 2,250,000 円/m
		61,200		
	底樋工 L= 67.0 m	88,100 千円	1,314,900 円/m	底樋工 67.0 m × 1,314,930 円/m ³
測 量 試 験 費	1 式	17,700 千円		土質調査業務 4,000 千円
				測量業務 3,000 千円
				設計業務 10,700 千円
用 地 買 収 補 償 費	1 式	4,000 千円		借地料・補償費 4,000 千円
工 事 雑 費	一 式	一 千円		
事 業 費		600,000 千円		

工事費内訳表(歳々原)

区 分	事 業 量	金 額	単 位 当 り 費 用	備 考
撤 去 工	- m	47,700 千円	円/m	土工・取壊 $m^3 \times$ 円/m ³ 法面工 $m^2 \times$ 円/m ³ 腰積工 $m^2 \times$ 円/m ² 仮設工 式 \times 円/m ² 撤去工 1 式 \times 47,700,000 円/m ²
洪 水 吐 工	- m	千円	円/m	土工 $m^3 \times$ 円/m ³ 水路工 式 \times 円/m ³
取 水 施 設 工	斜樋工 L= - m	千円	円/m	斜樋工 緊急放流工 $m \times$ 円/m
	底樋工 L= - m	千円	円/m	底樋工 $m \times$ 円/m ³
測 量 試 験 費	1 式	2,300 千円		土質調査業務 千円 測量業務 700 千円 設計業務 1,600 千円
用 地 買 収 補 償 費	- 式	千円		借地料・補償費 千円
工 事 雑 費	- 式	- 千円		
事 業 費		50,000 千円		

第10章 効 用

(第27表)

事業名	項 目	年総効果(便益)額 (千円)	年増加農業所得額 (千円)	備 考
	区 分			
県営ため池等整備事業	食料の安定供給確保に関する効果	△ 368	41	維持管理費節減効果(農業生産)
	農業の持続的発展に関する効果	20,144	4,667	災害防止効果(農業関係資産)
	農村の振興に関する効果	343,915	-	災害防止効果(一般資産)
	多面的機能の発展に関する効果	58,497	-	災害防止効果(公共資産)
	計	422,188	4,708	

< 参 考 > 総便益額(現在価値化) : 8,747,730 千円

第11章 関 連 す る 事 業

該当なし

第12章 現 況 ・ 計 画 図 面

別紙のとおり